

## 資料 1

「2026 66th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」  
各部門 審査委員長紹介・審査委員長メッセージ

## ■フィルム部門 花田 礼 氏 ※新任



## 電通

## クリエイティブディレクター、プランナー

CM プランナーを目指して電通に入るも、クリエイティブ配属になれなかったため、一時は会社をフェードアウトしてドローンカメラマンになる。が、それがきっかけでいくつかの仕事に繋がり、紆余曲折あり現在のクリエイティブ職に至る。

近年のお仕事→マクドナルド「夜マックアニメ」「食べ美シリーズ」、ソフトバンク「いきなりイヤホンを装着される CM」「響く人には響くニュース」、サントリーBOSS「世界の TEA」、USJ「ユニ春」「ユニハロ」、カップヌードル「9 分割 CM」、タウンワーク「今田美桜さんの CM」、探偵! ナイトスクープ「AI に聞いても解決しないこと」、YOASOBI「アドベンチャー」MV など。

## 【審査委員長メッセージ】

いい CM の基準が、人によって違いすぎるこの時代に。

A さんには TV で見てクスッとくるような CM が響く一方で、TV を全く見ない B さんには X でバズっていたエモーショナルな長尺 CM が響き、TV だろうが SNS だろうが広告なんてまともに見ようもしない C さんでも、推しが出ている CM は絶賛してシェアをする。

などなど、いい CM の基準が人によって違いすぎる昨今なので、いろんな視点から見つつ、最後はそんな議論をも乗り越えてくるものたちをみんなで決められればと思います。

これまで「どうせこういうのは評価されないから...」と思っていたものなども、ぜひ応募いただけますと幸いです。

審査委員長と名乗るには明らかに実力・経験が不足している自覚がありますが、尊敬する福部さんからのバトンをどうにか繋げられるよう、たくさんの方の力を借りて頑張ります。ご協力よろしくお願いたします！

## ■フィルムクラフト部門 山田 智和 氏

**Caviar****Tokyo Film / 映像作家・映画監督・写真家**

映像作家 / 映画監督 / 写真家

米津玄師、あいみょん、宇多田ヒカル、藤井風、サカナクションなどのミュージックビデオを監督し、長編映画の監督、TVCM の企画演出のほか、写真集やファッション誌のビジュアル撮影、写真展、ライブ演出などその活動は多岐に渡る。

**【審査委員長メッセージ】**

目指すところはフィルムクラフトによる純度の高いクリエイションの議論や評価の場所です。

日本で純粋に映像クリエイティブを評価する場所は限りなく少ないですが、ACC フィルムクラフト部門を通じてそのような場所が生まれることを強く望みます。

また、映像のクリエイティブを世の中にもっと発信していきたいという想いのもと、フィルムクラフト部門の授賞式を虎ノ門広告祭 2026 とコラボレーションして行いたいと思っております。広告映像はもちろん、それ以外のジャンルやどこにも該当しないような作品も是非ご応募下さい。

## ■ラジオ &amp; オーディオ広告部門 林 尚司 氏 ※新任

**電通**  
**クリエイティブ・ディレクター**

京都市生まれ。大阪大学経済学部卒業後、電通関西支社を経て、NYのクリエイティブエージェンシーに留学。2001年より電通本社勤務。

25歳の時、ラジオCMでTCC（東京コピーライターズクラブ）賞グランプリを取る。以降、CMプランナーとして、ACC賞のグランプリ・企画制作者賞・音楽賞・パーマネントコレクションをはじめ、広告電通賞、フジサンケイ広告大賞最優秀賞、OCC賞などを受賞。

国内賞の審査員や、海外では、モスクワ国際広告祭とブラジルのグラマド国際広告祭にて審査委員長を務める。

**【審査委員長メッセージ】**

キンチョーを倒せ。

昨年は、キンチョーが上位3つを独占した。まさに、独走だった。日本中のラジオCMに携わるみんな、悔しくはないか？ 追い抜こうとは思わないか？

彼らの強さは、単なるアイデアの差ではない。広告会社と制作会社、そして何よりクライアント自身が「最高におもしろいものを作ろう」と共謀する、あのチーム力だ。

企業の皆さん、ラジオCMで勝負しないか？ キンチョーよりいい作品を世に放ち、売り上げも、話題も、総ナメにしないか？ クリエイターと、放送局と、みんなで心をひとつにして。

さあ、キンチョーを倒せ。ついでに、ゴキブリも倒せ。ハエも蚊も倒せ。ムカデも、カメムシも、アリも、ハチも、アブも倒せ。キンチョーで倒せ。

## ■マーケティング・エフェクティブネス部門 向井 育子 氏 ※新任



味の素  
マーケティングデザインセンター センター長  
兼 コミュニケーションデザイン部長

## 【経歴】

味の素株式会社 広告部にクリエイティブとして入社。  
13年間クリエイティブ担当の後、製品開発をやりたいと事業部門へ。  
「ほんだし」のプロマネ後、中華だし、新領域開発を担当し、「Cook Do®」  
香味ペースト®や「Toss Sala®」などをローンチ。  
その後、味の素冷凍食品に出向し、開発グループ長、製品戦略部長に従事し  
「ザ★チャーハン」などの「ザ★」シリーズ、「おにぎり丸」、などの新ジャンルを創出、幻の駅ホームでギョーザを焼く<ギョーザステーション>など楽しいことを色々やった結果、マーケティング領域では5回の食品ヒット大賞をいただきました。  
2020年に味の素（株）に帰任、2023年より17年ぶりにマーケティングデザインセンター コミュニケーションデザイン部長として古巣に戻り26年4月よりマーケティングデザインセンター長を拝命。

## 【審査委員長メッセージ】

この度、マーケティング・エフェクティブネス部門の審査委員長を拝命し、身の引き締まる思いでおります。

私にできるのかしらと思う一方、今まで、うまくいかなかった製品やサービスがマーケティング戦略によって倍にも何百倍にも輝く瞬間を見てきた中で、この審査委員はその最も新しい瞬間に、最も沢山出会えるのだと思うと、その好奇心に勝てませんでした。

本当にワクワクしております。

マーケティングにはその力があります。世の中の人たちに驚きを与え、感動させ、そしてそれが事業に還元されてくるその力を、しっかり伝えていきたいと思っております。

## ■ブランデッド・コミュニケーション部門 栗林 和明氏

**CHOCOLATE****チーフコンテンツオフィサー**

CHOCOLATE Inc.のチーフコンテンツオフィサー/クリエイティブディレクター。映像企画を中心として、空間演出、商品開発、統合コミュニケーション設計を担う。

**【受賞歴】**

Ad Age「40 under 40」、ACC グランプリ、JAAA CREATOR OF THE YEAR メダリスト、Cannes Lions ゴールド、国際短編映画祭 SSFF&ASIA 部門大賞ほか、Spikes Asia、文化庁メディア芸術祭、ACC、釜山国際広告賞、など

**【審査委員歴】**

ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS 2025 審査委員長  
YouTube Works Awards Japan

**【主な作品・お仕事】**

映画『KILLTUBE』開発中、万博パビリオン『いのちの未来』ZONE2、映画『14歳の栞』企画、映画『MONDAYS』宣伝、サントリー「GEKIWA THE STRONG」「スパークリングパーク」、 「6秒商店」、lyrical school「スマホジャック MV」、 「相鉄レコードプロジェクト」、Vlog 映画「もう限界。無理。逃げ出したい。」、「#とろねこチャレンジ」、「クリープハイプのすべ展」など

**【審査委員長メッセージ】**

「広告の仕事はAI に取って代わられるのか？」

「人間にしかできない仕事とは？」

という問いが、容赦なく迫る時代。その答えの片鱗が、昨年の受賞作にあります。

- ・あまりに人間臭いプレゼンから生まれた事件的アイデア
- ・一人の人生が導いた、この世界に必要なコンセプト
- ・熱量を届けようとする人間の執念

など、光を放っていたのは、AI だけでは到底辿り着けない仕事の数々です。

従来の「広告」では括りきれなくとも、「これからの広告の可能性」と「人間にしかできない領域」の輪郭を鮮明に示してくれました。

だからこそ本部門では引き続き、「その他」の仕事を募集しています。

広告でも、コンテンツでも、サービスでも、事業でも、

人の心を動かし、ブランドを前進させていれば、形は問いません。

審査委員を試すつもりで、ぜひご応募ください。

## ■PR 部門 伊東 由理 氏 ※新任



LINE ヤフー／執行役員 コーポレートコミュニケーション CBU リード  
日本パブリックリレーションズ協会／副理事長 兼 企業部会 部会長  
日本人材派遣協会／PR アドバイザー

株式会社リクルート（現 リクルート HD）にて、広報部長、広報ブランド推進室長等を歴任し、19 年よりヤフー株式会社。20 年より Z ホールディングス株式会社執行役員、22 年より LINE 株式会社執行役員も兼任し、2023 年 10 月より現職。この間、PR、IR、ブランドマネジメント等コミュニケーション領域を経験。

PR では、IT サービスを中心したプロダクト PR、IPO やリスク対応・コーポレートブランディングといったコーポレートコミュニケーションの他、ミッション・バリューの策定・カルチャー醸成といったインターナルコミュニケーションも担当。

PR アワード審査員(2022～2024)

ACC PR 部門 審査委員 (2025)

## 【審査委員長メッセージ】

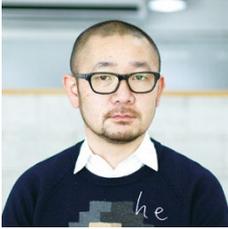
昨年、PR 部門では「No No Girls」プロジェクトをグランプリに選出しました。これは PR なのか――審査委員の間で大きな議論になりました。しかし、オーディションを「社会の価値観を問い直す装置」として再定義し、旧来の価値観を超えて向き合った姿勢と、その社会的インパクトを私たちは評価しました。

PR は本来、自由で幅広い営みですが、技術の進展や価値観の多様化により、その領域や創造性はさらに広がっています。だからこそ今年は、ステークホルダーとの関係構築や対話、行動変容への道筋まで含め、「PR におけるクリエイティビティとは何か」を丁寧に見つめたいと思います。

コーポレートブランディング、マーケティングコミュニケーション、インターナルコミュニケーション、クライシスコミュニケーション等――すべてのコミュニケーション活動が対象です。あなたが現場で本気で向き合い、「これぞ PR」と信じられる実践を届けてください。

あらゆる挑戦に敬意を込めて、ご応募をお待ちしています。

## ■デザイン部門 木住野 彰悟 氏 ※新任



6D-K

アートディレクター・グラフィックデザイナー

1975年東京都出身。2007年グラフィックデザイン事務所6D設立。企業や商品のビジュアルアイデンティティを中心に、ロゴやパッケージデザイン、空間のサインデザインなどを手掛ける。近年は多様な領域でのデザインシステム構築にも取り組んでいる。

最近の主な仕事に、「旭川市デザインシステム」アートディレクション、「コクヨ」リブランディング監修、「不二家洋菓子店」リブランディング、NHK「放送100年」プロジェクトロゴデザインなど。2026年開催の「前橋国際芸術祭」のデザインディレクターに就任。2025年に初の著書『「らしさ」の設計』を刊行。

D&AD、カンヌ、アジアデザイン賞、東京ADC、JAGDA、サインデザイン賞、パッケージデザイン賞など国内外のデザイン賞を多数受賞。

2016年D&AD審査員、2017年からグッドデザイン賞審査員、2023年からコクヨデザインアワード審査員、2026年にNYADCの審査員を務める。

## 【審査委員長メッセージ】

デザインの定義が広がる中で、その審査は年々、興味深くも難しくなっています。いまや何をもってデザインとするか、一言では語れません。だからこそ、作り手にしか持ち得ない圧倒的な\*\*「クラフト」の力と、その背景にある深い思考や意志\*\*を、改めて丁寧に見つめ直したいと考えています。

純粋な美しさや完成度だけでなく、そのプロジェクトがどんな背景から生まれ、社会の中でどのように人に届き、何を動かしたのか。広告をはじめとする多様な表現が生み出す「関係性」や「行動」、そしてそこにある明確な意志を大切にしたい。

作り手としてのクラフトの強度と、社会に対する真摯な姿勢。その両方を等しく見つめながら、審査委員の皆さんと対話を重ね、この時代にふさわしいデザインの輪郭を丁寧に見つけ出していきたいと思えます。

## ■メディアクリエイティブ部門 松崎 容子 氏 ※新任

フジテレビジョン  
執行役員

1993年学習院大学卒業。大学時代は輔仁会（体育会）剣道部所属。剣道四段。  
同年株式会社フジテレビジョン入社。

事業部、秘書室を経て、2002年より編成制作局編成部にて、アニメ、バラエティ、ドラマ、ドキュメンタリー番組の制作に関わる。

担当番組はアニメ「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」「ONE PIECE」、バラエティ「VS嵐」、実写ドラマ「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」など。

2005年深夜のアニメ枠「ノイタミナ」枠立ち上げメンバー。「Paradise Kiss」「働きマン」「獣王星」「東京マグニチュード 8.0」他プロデュース。

2024年アニメ事業局長、2025年執行役員 IP・アニメ事業担当。

## 【審査委員長メッセージ】

## まだ誰も見たことのない「物語」を求めて

皆様

もう「聞き飽きたよ」と、仰るかとは思いますが…

メディアは今、この瞬間も激変しています。越境しています。

しかし、プラットフォームがどれほど多様化しようとも

メディアのクリエイティブに求められているのは

単なる「情報の伝達」ではなく

「人の心を動かす景色を創ること」ではないでしょうか。

「企画」とは「遠くを見据えて【企】」「未来の絵を描く【画】」ことです。

今年度のメディアクリエイティブ部門は、既存の枠組みや手法に捉われない  
あなたの「企てる力」をお待ちしています。

技術の巧拙以上に、そこに「意志」があるか、

そして「未来に繋がる驚き」があるか、を大切にしたいと考えています。

皆さんの情熱が詰まった、挑戦的な作品に出会えることを心から楽しみにしております。

**■クリエイティブイノベーション部門 小池 藍氏 ※新任****THE CREATIVE FUND, LLP／代表パートナー  
日本ベンチャーキャピタル協会／理事**

大学時代にスタートアップを経験後、2010年博報堂入社。  
その後、2012年から2015年までプライベートエクイティファンドのアドバンテッジパートナーズにてバイアウト(LBO)投資と投資先の経営及び新規事業運営に、2016年よりあすかホールディングスにて東南アジア・インドのスタートアップ投資に従事し、独立。企業への経営や新規事業アドヴァイスなども行う。  
2020年より日本にてベンチャー投資ファンドのTHE CREATIVE FUNDを創業。  
また、現代アートの知見を深めることとコレクション、普及に努める。2021年京都芸術大学芸術学部専任講師にも着任。2022年よりADワークスグループ社外取締役就任。2024年日本ベンチャーキャピタル協会の理事に就任。

**【審査委員長メッセージ】**

クリエイティブイノベーション部門の審査委員長を拝命し、大変光栄に思います。

本部門は「人間が抱える課題へ向かう姿勢×クリエイティビティ」をテーマに、世の中を変える可能性を秘めたプロダクト・サービス・プロトタイプを発掘する、未来志向の場です。スタートアップの熱量ある挑戦も、大企業発の新規事業も、研究室生まれのプロトタイプも、等しく評価の俎上に載せることができる、このアワードならではの懐の深さに魅力を感じています。

審査では「革新性」「有用性」「社会に根付くポテンシャル」を軸に、ビジネスの規模だけでなく、アイデアそのものの本質的な面白さと誠実さを重視して臨みます。

完成品でなくてもかまいません。「まだ世界にない何か」を信じて形にした方々の挑戦を、ぜひこの場で見せてください。皆さんのエントリーをお待ちしています。